

有限会社

文楽せんべい本舗

代表取締役 村上弘平さん



昔と変わらぬ素朴な味わい。
世代を問わず愛される「文楽せんべい」

江戸時代から庶民の娯楽として親しまれている大阪発祥の人形浄瑠璃「文楽」。喜ばれる大阪の名物を作りたいとの思いから祖父の代に生まれた「文楽せんべい」（登録商標）は、物語に登場するさまざまな文楽人形の“かしら”の焼印入り玉子せんべいだ。



添加物は使わず、たっぷりの新鮮な卵と小麦粉、砂糖、はちみつを混ぜてゆっくり練り一晩おいて焼き上げる。ほろっと口の中で溶ける優しく懐かしい味。世代を問わず愛されているのは、昔と変わらぬ素朴な味を守り続けているから。材料、作り方だけでなく、焼印、包装のデザインにいたるまで、当時と何も変えていない。

全国の文楽公演でも販売される「文楽せんべい」は、大阪で永年、愛され続けている特産品だけに認定される「大阪産名品」にも選ばれている。

BIGONES

ビッグワンス

技術 松井勝慶さん



「水圧転写」で身の回りのものが
お気に入りのデザインに変身！

ビッグワンスが独自に開発した水圧転写システムは、どんな複雑な形状のものにも写真やイラストのデザインをプリントすることができ、日常の様々な物がオリジナリティ溢れるものに生まれ変わる。



水圧転写の仕組みは、デザインが印刷されたフィルムを水面に浮かべ、薬液を吹きかける。均一にかかる水圧の力を利用して、対象物にフィルムのデザインを転写するというもの。

フィルムへの印刷は、インクジェットプリンターでの出力が可能。フィルムも薬液も、台湾で学んだ水圧転写の技術に、元自動車業界の塗装職人の知識を生かし、独自開発したもの。フィルムの成分は洗濯のりとはほぼ同じなので、水に溶け、薬液とともに普通に流して捨てることができ環境にも優しい。

人とは違う個性的なもの、オリジナリティを求める人が増えている中、1個から対応できる水圧転写のニーズは個人から大手企業まで確実に増えている。

2019年 2月号

株式会社 クヌギザ

代表取締役 梶座寛之さん



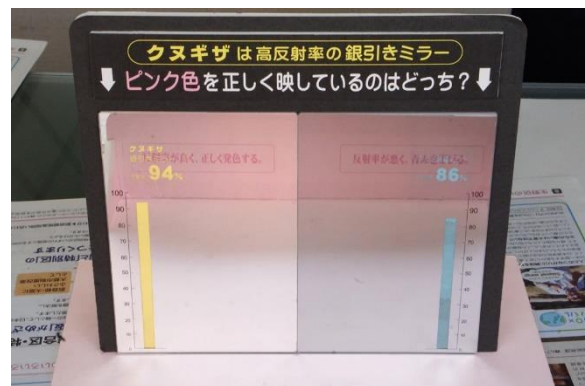
“高反射”化粧コンパクトミラーで
国内トップシェア



ガラスから作られる鏡。その製造は薄くなればなるほど難しい。特に、化粧用コンパクトなどに使用される「薄物鏡」と呼ばれる厚さ1mmの鏡は、非常に高い技術が求められる。そんな「薄物鏡」を主に扱い、製造から切断、面取り、組み立てまで一貫生産している「株式会社クヌギザ」。

同社では、一般的な「アルミ蒸着」製法と違い、ガラス板に銀の膜を吹き付け、さらにその上に銅メッキと保護塗料を塗って仕上げる「銀引き鏡」を採用。手間がかかるが、その光の反射率は94%に及ぶ。明るく美しく反射する鏡は、化粧コンパクトミラーで国内トップシェアを誇っている。

環境に配慮し、鉛を使わない鏡用塗料も開発したことにより自動車メーカーからも注目を集めている。



▲ 高反射率だからこそ、そのままの色が
映し出される！
※左側がクヌギザ製の鏡

一時は安価な海外製品に押されがちだったが、今は同社の高い技術が再認識され、需要が増えてきている。「高い技術の“ものづくり”を維持するためにも、社員を大事にしたい」と話す梶座さんのもとには、若い社員が増えてきているという。

鏡製造というニッチな産業でクヌギザはこれからも光輝く。

日本精機 株式会社

代表取締役 高橋祐子さん

旧車を愛用する人たちの味方
DOKUROが息を吹き返らせる



デザイン性を求め、あえて古い日本車を
愛用する人は多い。

乗り続けるためには、部品の交換は必須だ。
それなのに、純正の部品は高価である上に、
数年で製造が終了となってしまう。しかし諦
めることはない。日本精機は、超小口のオー
ダーにも対応する数少ないエンジンバルブ
製造会社。たった1台のためだけの個人依
頼も受け付けている。



▲ 大阪大学とコラボも。
学生さんのアイデアで作ったシャンパン
グラスとチェスセット。



▲ エンジンバルブ“DOKURO”

ブランド名のDOKURO（ドクロ）には、自
由に大海原を駆け巡る海賊のように、世界
中をまたにかける商品になって欲しいとの
思いが込められている。取引する国は60を
超える。移動手段としての実用性が求めら
れる国々では、部品を交換すれば、何十年
でも乗り続けられる日本車が重宝されてい
るからだ。

DOKUROによって息を吹き返した車が
今日も世界で走り続けている。